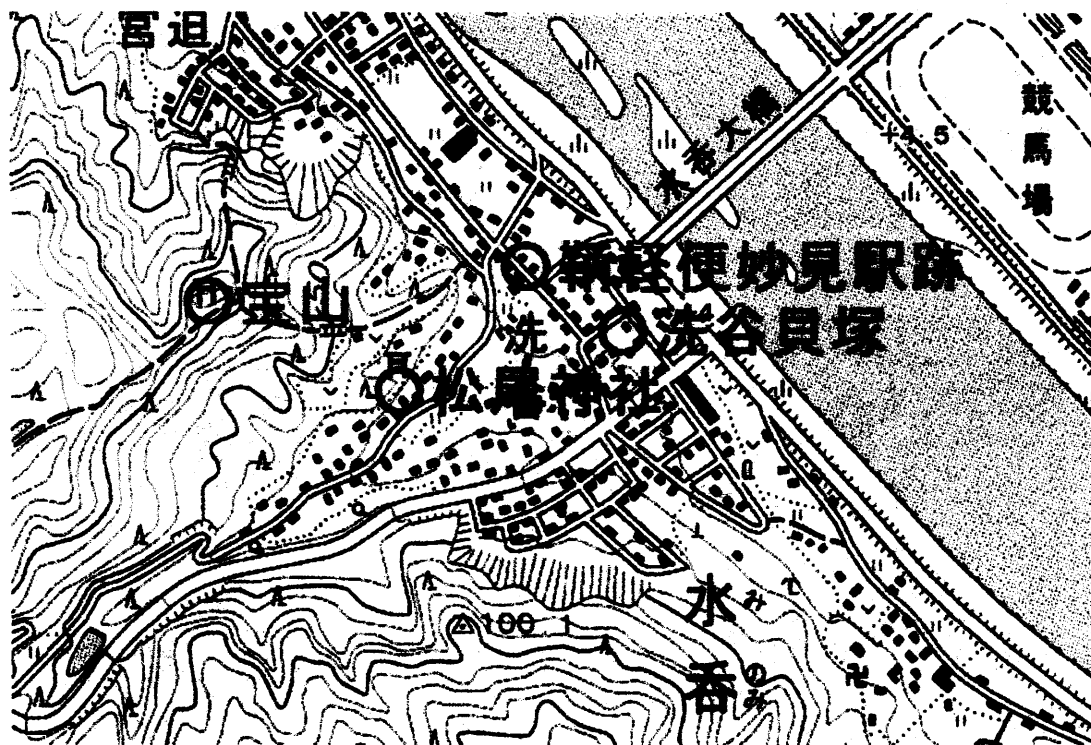


ぶら探訪

その八 備後史の原点「洗谷」を歩く

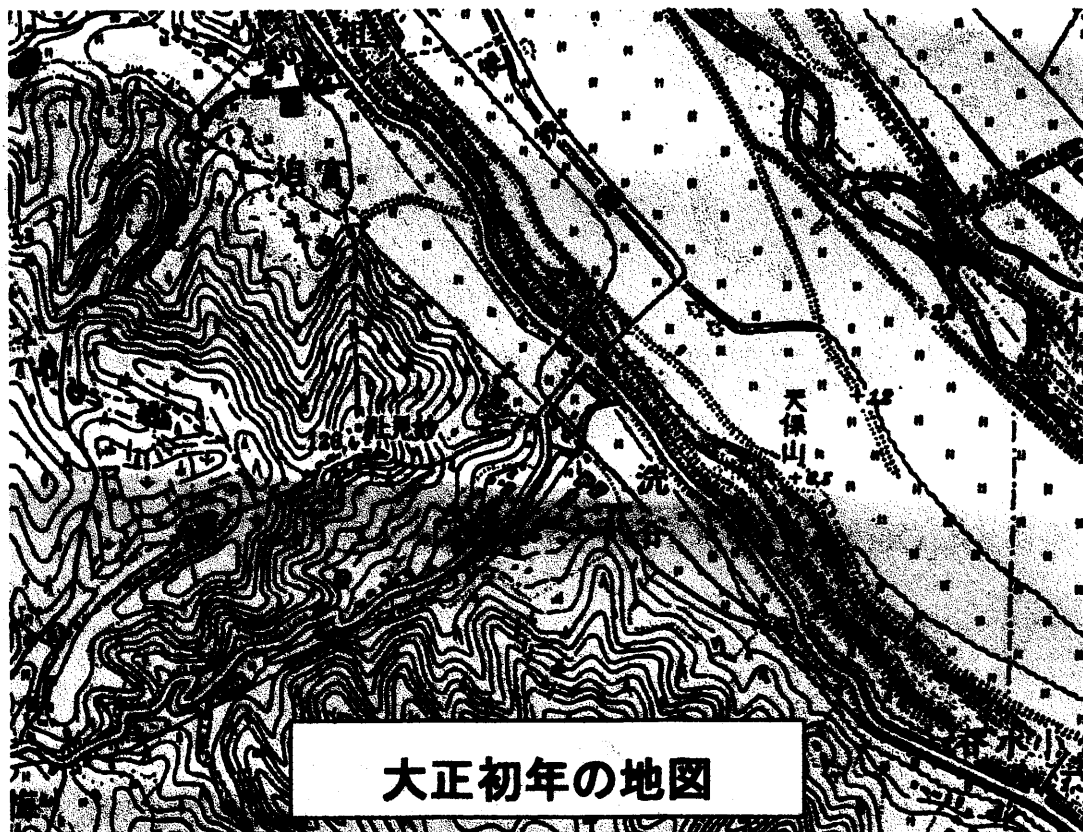
講師 田口義之

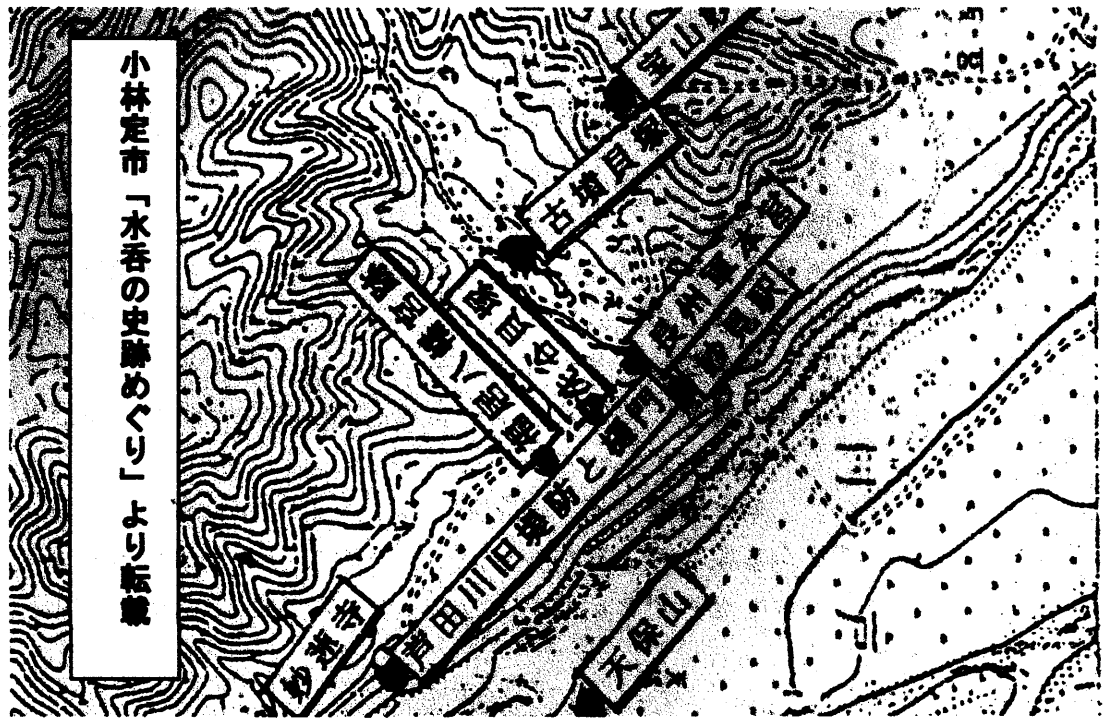
平成24(2012)年12月1日【土】午前9時スタート



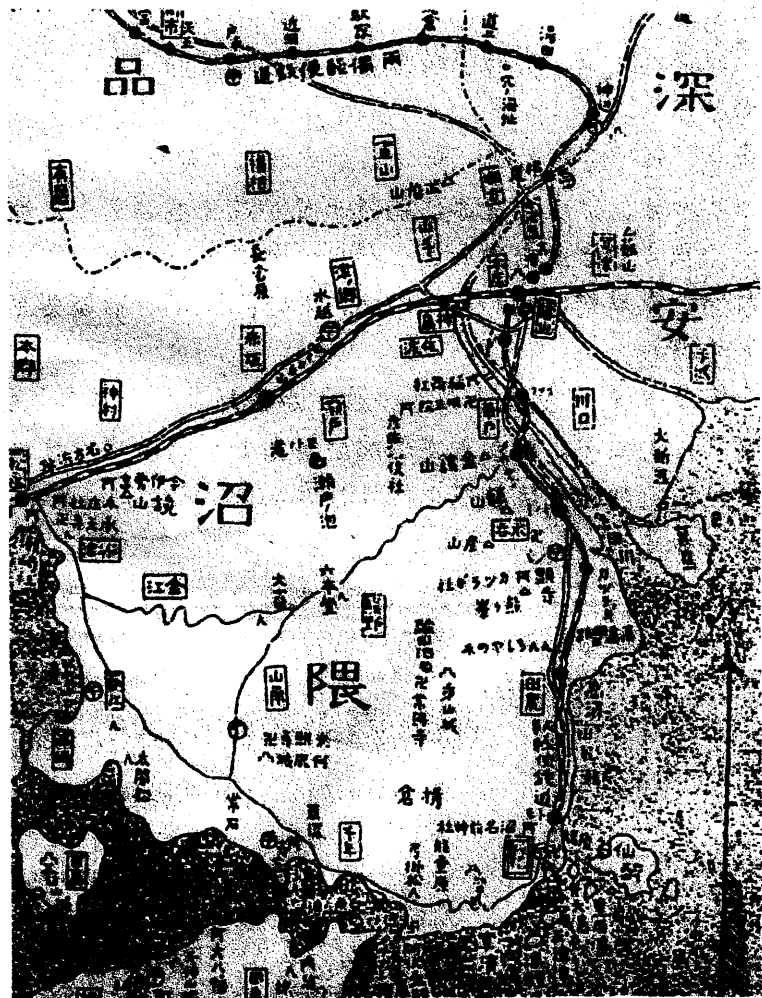
主な見どころ

- 1、洗谷貝塚
- 2、新軽便鉄道・妙見駅跡
- 3、宝山妙見山





小林定市「水香の史跡めぐり」より転載



古記録拾遺

宝山（備陽六郡志）

小水呑にあり。横に巖岨岨として風景よき山なり。此の所より長和村、志た原へ越す道あり、荒尾谷という。

鬼のまな板（備陽六郡志）

荒尾谷に有。某（宮原直伽）壮年の頃、不眠の症をうれへて、昼夜眠らざること五カ年に及べり。後は氣短軀瘦し、閨中に伏して鬱々として独り言を言うこと客に対する如し。母弟怪しみて夜更是を窺うに、人有りて来るにあらず（略）某おもへらく、是氣少鬱憂、胸に塞がり、怒氣強くして心火盛んなるが故なり。然らば針湯の及ぶべくに非ず。心を慰め身を勞せんにはしかずと。それより深津手城に杖を引き、草戸萱野に登り風雲の思いをなせり。ある時ふと此の所に來りて見るに、假山を築き足る如にして澗水流々たり、風景詠に飽かず。（略）それより日々蕩遊して至らずということなし。（略）終に病を治したり。

今日の主な見学地

洗谷貝塚

昭和8年橋高武夫氏によって発見された。以後度々発掘され、県内の代表的な縄文時代の貝塚であることが明らかになった。特に発掘されたサヌカイとの原石が縄文時代の交易を物語るものとして注目されている。

水呑寄

幕末、城下を守る為、四口に訓練された農兵や獵師を置いて警備にあたらせた。城下南方には水呑洗谷に屯所が置かれ「水呑寄」と称された。明治元年1月の福山戦争では皮肉にもここが長州軍の本營となってしまった。福山側の軍使が最初に長州側と接触したのは、この近くの「お菊茶屋」と伝わっている。

松尾神社

「宝暦六年」「寛政十年」の棟札が伝わっているが、現在の社殿は昭和五年に再建されたもの。腰から下の病に験ありとして広く信仰を集め、信者が奉納したお神酒徳利の数は数万本に達している。

宝山妙見山

水呑妙顕寺によって管理運営された日蓮宗の霊場で、創建年月日は不詳。福山の地名は、この宝山に相對する地として名付けられたという。

● 備陽史探訪の会 事務局

〒720-0824 福山市多治米町5-19-8

TEL&FAX 084-953-6157

E-メール info@bingo-history.net

公式ホームページ

<http://bingo-history.net>